

事務事業評価シート

(評価対象年度：令和2年度)

1. 基本的事項【PLAN】

①事務事業名		民間保育所等支援事業			②事業番号	4304	
③事業類型	1. 法上(必須)事業		④開始年度	昭和 50 年度	⑤終了予定年度	年度	○ 設定なし
⑥根拠法令等	○ 法令	条例	規則	○ 要綱	○ 計画等	その他	法令等の名称
⑦実施手法	直営	全部委託	一部委託	○ 補助・負担	その他		
⑧関連予算科目コード	款	3	項	2	目	6	細目
⑨担当部名	健康子ども部		⑩担当課名	保育子ども課		会計	一般会計

2. 事務事業の現状把握【DO】

【1】事務事業の目的・事業内容

(1)対象(誰、何に対して事業を行うのか)	対象指標(対象者数を表す指標)	単位
① 就学前児童と保護者	① 就学前児童数(0~5歳)	人
② 民間特定保育・教育施設	② 民間保育・教育施設の数	法人
(2)事業内容(具体的な事務事業の内容、どのような方法で実施しているか)	活動指標(活動の量を表す指標)	単位
民設民営の保育所運営を支援し、民間保育所等での児童福祉の充実のため次の事業を実施する。 1 民間保育所等(8箇所)への運営費負担金・補助金の交付 2 広域委託施設への運営費負担金の交付 3 子ども子育て支援事業への補助金の交付 4 保育所等における感染症対策に係る補助金の交付	① 民間保育所等受入定員数(2、3号)	人
	② 民間保育所等受入定員数(1号)	人
	③	
(3)意図(対象をどのような状態にしたいか、何をねらっているのか)	成果指標(意図の達成度を表す指標)	単位
平成27年度からスタートした子ども・子育て支援新制度により、必要とするすべての家庭が利用できる環境を整える必要がある。民間施設の運営においては、計画的に保育士を配置し待機児童ゼロを目指すことはもちろんの事、様々なニーズに対応した保育・教育を実施し、保護者が安心して子どもを預けることができる環境を整えることができるよう支援を行う。	① 入園者数(2、3号)	人
	② 入園者数(1号)	人
	③ 待機児童数	人
(4)結果(対象を意図する状態にすることで、何に結びつか。上位施策との関連)	総合計画体系上の位置付け	
待機児童の発生を抑制することで、子育てしやすい環境が整い、子育てと仕事の両立が図られる。 その他の体系上の位置付け (2 - 1 - 2 - 1) : 子どもを育てる環境づくり (2 - 1 - 2 - 2) : 発達支援・障害児支援の充実 (2 - 1 - 2 - 3) : 子どもの虐待防止の推進	政策(章)	2: みんなが健やかで、みんなが助け合うまち
	施策大(節)	1: 子どもと大人が夢や希望を持ち、ともに成長できるまちをめざします
	施策中	2: 子育てしやすい環境の整備
	施策小	4: 子育てと仕事の両立支援

【2】各種指標値、事業費の推移

指標名	単位	H30実績	R1実績	R2実績	R3見込	R4目標		
対象指標① 就学前児童数(0~5歳)	人	2,767	2,684	2,591	2,550	2,500	指標値の推移における特殊要因などの説明	
対象指標② 民間保育・教育施設の数	法人	7	8	8	8	8		
活動指標① 民間保育所等受入定員数(2、3号)	人	699	799	799	799	799		
活動指標② 民間保育所等受入定員数(1号)	人	45	255	270	270	270		
活動指標③								
成果指標① 入園者数(2、3号)	人	735	773	783	790	790		
成果指標② 入園者数(1号)	人	42	195	214	220	220		
成果指標③ 待機児童数	人	0	0	0	0	0		
事業費	投入人員							事業費などの推移における特殊要因などの説明 R1より保育無償化。 R2より組織改編に伴い幼児教育に係る民間補助予算が加わることに伴う増加。
	正職員	人	0.85	0.90	1.45	1.45		
	任期付職員	人	0.05	0.05	0.60	0.60		
	臨時職員	人	0.00	0.10	0.00	0.00		
事業費	人件費(投入人員*単価)	千円	7,055	7,278	12,873	12,873		
	直接事業費	千円	1,010,282	955,261	1,134,675	1,237,185		
	総事業費	千円	1,017,337	962,539	1,147,548	1,250,058		
財源内訳	国庫支出金	千円	356,944	415,420	539,768	549,543		
	府支出金	千円	175,739	215,368	258,497	265,655		
	受益者負担金	千円	41,277	24,773	7,870	9,780		
	その他特定財源	千円	0	9,000	0	0		
一般財源	千円	443,377	297,978	341,413	425,080			

【3】事務事業開始の経緯、状況の変化、評価結果への対応

①この事業を開始したきっかけは何か。	多種・多様化する保護者の就労形態やニーズに応じるため。児童福祉法の規定。
②開始から現在までこの事務事業を取り巻く状況は、どのように変化したか。また、今後どのように変化していくと考えられるか。	保育に欠ける欠け合いを問わず、保護者の方より何等かの子育て支援が受けられる環境整備が求められてきており、今後、子ども・子育て新制度により新たな子育て環境を創造していくことが不可欠と考えられる。また、令和元年10月から始まった幼児教育保育無償化に係る制度を着実に運用するための体制強化が求められる。
③前年度の評価結果を受けて行った改革・改善の取組はあるか。	—

3. 事務事業の評価【CHECK】

[1]目的妥当性(必要性)		A.高い	B.やや高い	C.やや低い	D.低い	[1]の評価	A
評価項目	評価及び理由・説明等						
①事業サービス内容、質、規模等は市民のニーズや社会環境に合っていますか。 (他団体と比較してどうですか。)	ア. 合っている イ. ある程度 ウ. いない	夜間保育などの特別な事業展開以外は、市民のニーズや地域性から判断しても社会環境に一定即している判断している。					

[2]有効性		A.高い	B.やや高い	C.やや低い	D.低い	[2]の評価	A
②期待どおりの成果が得られていますか。	ア. 得られている イ. ある程度 ウ. いない	保育所事業についての待機児童は生じていないものの、新たな保育ニーズに対する事業展開の検討を行う余地がある。					
③今後事務事業を工夫することで成果向上の余地はありませんか。 (事務事業の成果指標をさらに伸ばすことができませんか。)	ア. ある イ. ない	保育に欠ける欠けないを問わず、保護者が何らかの子育て支援施策が受けれる環境が整備されてきたが、今後、より一層、親支援・家庭支援などの子育て支援施策の充実が求められていると考えられる。					
④庁内の他部署で、類似の目的を持つ事務事業はありませんか、それらと統廃合や連携を行うことで、より成果を向上できませんか。	ア. 類似なし イ. できる ウ. できない	-					

[3]効率性		A.高い	B.やや高い	C.やや低い	D.低い	[3]の評価	A
⑤成果を下げずに事業を工夫してコスト(直接事業費+人件費)を削減する手法はありませんか。 (業務改善、業務の委託化、委託業務内容の見直し、IT化などはできませんか。)	ア. ある イ. ない	最低基準が定められており、人員配置等による人件費削減は望めない。					

4. 総合評価

総合評価	評価(A~D)	個別評価の結果を踏まえて課題等を整理	A: 現状のまま事業を進めることが適当 B: 課題が少しあり事業の一部見直しが必要 (事業の進め方に改善が必要) C: 課題が多くあり事業の大幅な見直しが必要 (事業規模、内容、実施主体の見直しが必要) D: 事業の統合、休止・廃止の検討が必要
	A	-	

5. 改革、改善案【ACTION】

<今後の方向性>	
ア	ア. 現状のまま継続 イ. 見直しのうえで継続 ↓ ウ. 終了 エ. 休止 オ. 廃止 (___ 年まで) (___ 年から) (___ 年から)
<今後の展開方針>	
	a. 重点化する(集中的なコスト投入) b. 手段を改善する(実施主体や実施手段を変える) c. 効率化する(コストを下げる) d. 簡素化する(規模を縮小する) e. 統合する(他の事務事業と統合する)
①改革、改善の具体案、実施年度など	-
②改革・改善を実現するうえで、解決すべき課題及び考えられるその解決策	-